

平成27年度札幌市行政評価

市民参加ワークショップにおける改善提案と札幌市の考え方

(平成28年度における再検討結果)

目次	テーマ①: スポーツを楽しむ環境づくりと健康づくりの推進について	
	■事業への提案	P.1~2
	■テーマに関連したその他の提案	P.3~4
	テーマ②: ウィンタースポーツの活性化について□	
	■事業への提案	P.5
	■テーマに関連したその他の提案	P.6

■ 事業への提案

テーマ④：スポーツを楽しむ環境づくりと健康づくりの推進について

No.	事業	事業の問題点	事業への改善提案	平成27年度 検討結果	平成27年度 市の今後の取組の考え方	平成28年度 再検討結果	平成28年度 再検討結果に関する市の考え方	所管部局
1	ウォーキング推進 キャンペーン事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングマップがどこでももらえるかわからない ・マップが知られてないのが残念 ・地下鉄駅全駅に設置してほしい ・記載内容が更新されないと飽きてしまう ・まち中での実施はないのか 	<ul style="list-style-type: none"> ・地下鉄階段のメッセージを改札から出入口にも入れる。食べ物に換算したカロリー表示もしては？ ・ウォーキング推進キャンペーンの中で、地下鉄階段のような距離やカロリーなどの表示をチカホにも表示する。 ・ウォーキングの「事後」の効果を「生の声」としてPRする。 ※事後の効果をフォローするアンケートを実施して生の声を集める（定期的）> 終了直後のアンケート ※「産後ダイエットになった」「病院に行く回数が減った」など人を惹き付けるメッセージでPR ・上を歩くと発電する「発電マット」を企業とコラボレーションで設置する、市民に募集して階段にメッセージを設置するなど、楽しく健康のために階段を歩いてもらう仕組みを作ろう！ 	検討する	地下鉄階段の消費カロリーやメッセージ表示については、健康づくりについて自然に認識できる有効な取組と考えております。チカホでの表示や、事後効果につきましては、今後検討してまいります。	実施予定	地下鉄階段等の健康に関するメッセージの追加表示については、今後、企業との連携による設置を協議していく予定です。 ウォーキングの事後効果等につきましては、ご提案いただいた案を踏まえて、年に一度開催する「健康なまちづくりフォーラム」のなかで、市民からウォーキンググループの取組やその効果等について生の声を発信し、参加者同士で共有する機会を持ちました。	保健所
2	スポーツ推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと市民に身近な活動を ・身の回りの委員を知らない ・市民に知られていない ・若い人が少ない ・人材不足が知られていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進委員の不足に対応するために、体育系の大学とコラボして学生を活用しよう！（※単位を与えてあげたら学生にとってもウマミあり！） ・スポーツ推進委員は公募制にし、年代・性別を区切って募集し、地域で「健康寿命を延ばそう」 	検討する	大学等の教育機関との連携につきましては、これまでも事業の実施などにおいて行ってきたところです。今後は、スポーツ推進委員のなり手不足という実情を踏まえ、ご提案の趣旨も含めた若い世代の参画の可能性について、委員の選任要件、手続きなどの検討を進めてまいります。	検討の結果、実施困難	札幌市ではスポーツ推進委員を非常勤の特別職としております。そのため、特に人格に十分配慮することが必要であることから、札幌市スポーツ推進委員の選任等に関する要綱において、「地区推薦会の推薦を受けた者」を選任することとしております。このことから、公募制による募集については困難であると考えます。なお、若い世代の参画を図るために、選任要件の内、年齢要件についてこれまで段階的に引き下げており、現在は「20歳以上」としてしております。今後も引き続きより多くの市民の皆さんにスポーツ推進委員の活動に参画していただけるよう、適宜検討を進めてまいります。	スポーツ部
3	スポーツ事業促進助成	<ul style="list-style-type: none"> ・利用しやすい料金に（特にスキー場） ・マンネリ化・自然に親しむ視点を含めた事業支援を ・助成条件が厳しい ・申請が大変だがメリットが少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・申請の簡略化や、助成条件の見直しをしてほしい 	検討する	申請様式、申請方法等については、申請者の負担が過度とならないよう、これまでも配慮に努めてきたところであり、また、助成条件についても助成金選考委員会において協議するなど、随時見直しをしておりますが、ご提案の趣旨を踏まえ、さらなる改善に向けて今後も検討を進めてまいります。	実施予定	申請様式、申請方法及び、助成条件、対象、金額等について見直しの検討を進めているところであり、今後、助成金選考委員会において協議検討を進めてまいります。	スポーツ部
4	学校開放事業運営	<ul style="list-style-type: none"> ・同じグループが押さえていてなかなか予約が取れない ・プール開放の日数が少ない ・運営を継続拡大できるか ・特定の団体しか使えない印象がある ・申し込みが面倒 ・会場が抽選で遠方だと困る ・校庭も使用できるとよい ・特定の人が使用している 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校開放事業の中で、プール開放の日数を増やしてもっと気軽に利用できるようにする。また、現在PTAが行っている監視員は地域のボランティアを育成するなど、体制を強化する。 ・学校開放事業の場所の不足に対応するために、グラウンドや廃校・空き施設などを活用しよう！ ※子どもが安心して遊べるよう、見守りをシニア世代（地域の方）等に任せる！ 	検討する	学校のプール開放については、7月及び8月の土日祝のうち開放日数を延べ8日以内としておりますが、運営面や経費などの課題があり、現時点では開放日を増やす計画はありません。なお、今後利用が可能な廃校や空き施設等が生じた場合の活用に係る検討が行われる際には、スポーツ部としても利用の可能性について検討を行ってまいります。また、現在実施している事業に、地域ボランティア育成やシニア世代活用の視点を盛り込めるよう工夫してまいります。	検討の結果、実施困難	札幌市の学校施設開放事業における学校プール開放については、市内200校を指定校とし、7月及び8月の土日祝日のうち開放日数を延べ8日以内としており、開放時の管理運営は各校のPTA（父母と先生の会）に委託しております。運営面や経費などの課題があり、現時点では、学校施設開放事業において開放日を増やす計画はありません。 また、今後利用が可能な廃校や空き施設等が生じた場合の活用に係る検討が行われる際には、スポーツ部としても利用の可能性やシニア世代の活用等について検討を行ってまいります。	スポーツ部

■ 事業への提案

テーマ①：スポーツを楽しむ環境づくりと健康づくりの推進について

No.	事業	事業の問題点	事業への改善提案	平成27年度 検討結果	平成27年度 市の今後の取組の考え方	平成28年度 再検討結果	平成28年度 再検討結果に関する市の考え方	所管部局
5	オリンピックスキャラバン事業	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会や体育振興会のイベントだけでは人数が少ない ・知名度が低い ・あまり活用されていない ・ジャンプなどやや特殊な競技での派遣が難しそう 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業が活用されるよう、幅広いイベントで取組を行ってほしい 	数年以内に実施する	H25年度の事業開始以来、市内の各体育振興会やスポーツ推進委員が中心となってイベントを開催し、市民周知を図りながら利用者数を増やしてきました。H27年度は前年度の884名を大きく上回る1470名の利用者を集め、今後さらに利用者を伸ばしていくことが期待されます。今後、より多くの市民の皆様がこの事業を利用いただくために、ご提案の趣旨を踏まえ、様々なイベントでこの事業を活用することも検討してまいります。	実施済み	<p>本事業では、地域振興課や各区のスポーツ推進委員会と連携を図りながら、様々なスポーツイベントを開催し、今年度はこれまでで最多の1,730名の市民の方々のご参加を頂きました。今後も引き続き、様々なスポーツイベントや講習会において、本事業を活用して頂けるよう、周知に努めてまいります。</p>	スポーツ部

■テーマに関連したその他の提案

テーマ①：スポーツを楽しむ環境づくりと健康づくりの推進について

NO	提案事項	平成27年度 検討結果	平成27年度 市の今後の取組の考え方	平成28年度 再検討結果	平成28年度 再検討結果に関する市の考え方	所管部局
1	・市民1人1人が持つ札幌市発行の「健康手帳」をつくり、スポーツイベント等のスケジュール管理、健康の目安等を管理できるようにし、企業コラボでポイント集めもできるようにしよう！	検討する	健診結果等を記録する健康手帳については、平成22年度市民評価（事業仕分け）において、健診結果は受診機関から記録として交付される等の検討結果を受け、交付を廃止しております。また、近年の健康志向の高まりにより、ITを含めた様々な健康管理のツールも手に入れることができるようになっております。健康手帳の再作成にあたっては、社会環境も踏まえ十分に検討する必要があり、企業との連携も含め検討してまいります。	検討の結果、実施困難	現時点では、平成22年度市民評価（事業仕分け）のご意見を踏まえ、健康手帳（紙媒体）の再作成の予定はありませんが、今後のICT（通信情報技術）の社会全体への浸透を注視しながら、費用対効果に留意しつつポイント事業なども検討していきたいと考えております。	保健所
2	・拠点施設も大切だけど、身近な場所の健康づくりスポットを増やす ※例：バス停・小さな公園の健康遊具	検討する	高齢社会において、より身近な場所で健康づくりに取り組める環境の整備は重要なことと認識しております。今後の取組みにつきましては、関係部署や企業等とも連携の上、健康情報の発信方法や、健康づくりの身近な拠点づくりについて工夫してまいります。	実施予定	例示にありますようなバス停や公園などに健康遊具を設置することは現時点では予定はございませんが、例えば、民間の運動施設などとも連携しながら、市民が健康づくりに取り組みやすい環境を整備していきたいと考えております。	保健所
3	・事業成果の「わかりやすい指標」と、成果報告の方法を工夫すると市民も評価しやすい！！	数年以内に実施する	札幌市健康づくり基本計画「健康さっぽろ21（第二次）」の中間評価を平成30年度に予定しておりますので、市民への報告方法を分かりやすくできるよう、工夫いたします。	実施予定	札幌市健康づくり基本計画「健康さっぽろ21（第二次）」の中間評価を平成30年度に予定しておりますので、市民への報告方法を分かりやすくできるよう、工夫いたします。	保健所
		数年以内に実施する	「札幌市スポーツ推進計画」については、中間年である平成29年度を目途に、内容の再検討を行う予定としております。その際、指標や成果報告の方法についても、よりご理解いただけるよう検討を行ってまいります。	実施予定	「札幌市スポーツ推進計画」については、中間年である平成29年度を目途に、内容の再検討を行う予定としております。その際、指標や成果報告の方法についても、よりご理解いただけるよう検討を行ってまいります。	スポーツ部
4	・健康づくりに力をいれている企業がメリットがあるような仕組みづくり（認定など）を整える！ ※社員向け、地域向けに取り組む企業 ※ポイント制度の導入！（限定品がもらえる、割引される）	検討する	札幌市では、市民一人ひとりが健康づくりに取り組みやすい環境を整備する取組に賛同し、札幌市と連携して活動頂ける企業・団体等をホームページ上で募集しております。現在14の企業が連携して協働事業に取り組んでおり、その内容等について、札幌市のホームページで公表しているところです。ご提案いただいた内容も含め、今後より多くの企業が、札幌市と連携して活動いただける仕組みを検討したいと考えております。	実施予定	札幌市では、市民一人ひとりが健康づくりに取り組みやすい環境を整備し、健康寿命の延伸を目指すために企業と連携協定を締結しています。ご提案を踏まえ、企業が社員にむけて健康増進を図ることも推奨しているところであり、取組内容に応じて札幌市ホームページ上で掲載することで、企業が札幌市の健康づくり施策に積極的に協力していることが市民に認知され、企業のイメージアップにつながると考えています。	保健所

■テーマに関連したその他の提案

テーマ①：スポーツを楽しむ環境づくりと健康づくりの推進について

NO	提案事項	平成27年度 検討結果	平成27年度 市の今後の取組の考え方	平成28年度 再検討結果	平成28年度 再検討結果に関する市の考え方	所管部局
5	・運動とプラスα（食や施設見学など）を楽しめるツアーなどの取組が行われるよう支援する。	検討する	運動以外にも食生活等いろいろな健康づくりの要素を取り入れ、市民が楽しく健康づくりに取り組める方法を検討いたします。	実施済み	各区がバックアップしている区民主体のウォーキング大会において、ウォーキングだけでなく食事や工場見学などを併せて実施するなど、楽しみながら健康づくりに取り組んでいるところもあります。今後も市民が楽しく健康づくりに取り組める方法を検討し提案していきます。	保健所
		検討する	スポーツと食を楽しめるツアーについては、民間レベルで既に実施しているものもあることから、運動とプラスαを楽しめるツアーなどの取組が促進されるよう、札幌市としての支援のあり方などを検討してまいります。	実施済み	札幌市は、スポーツと食や観光資源などを楽しむことができる、いわゆるスポーツツーリズムを推進するため、2016年3月に「さっぽろグローバルスポーツコミッション」(以下「スポーツコミッション」とする。)を設立しました。 スポーツコミッションは、昨年9月に札幌で開催された軟式野球の全国大会において、主催者である日本軟式野球連盟と連携し、道内外から札幌を訪れた1,500人の選手・役員に対して、札幌の食や観光施設などの情報提供を行い、スポーツと食・観光施設を楽しむことができるような取組を行いました。 今後は、既存のスポーツイベントと食などのプラスαを楽しめるような取組が促進されるよう、札幌市としての支援のあり方を引き続き検討したいと考えております。	スポーツ部
6	・若い人がオシャレに参加できる朝活を推進する。たとえば、北3条広場でヨガをして、オープンテラスで朝食など。様々な場所で行われるようになると良い。	検討する	札幌市では、若い世代の方の運動不足や朝食欠食率が高いなどの問題を抱えているため、公共の施設等を活用し、若い世代の方が積極的に健康づくりに関わることは重要だと考えております。 ご提案いただいた内容も含め、今後より多くの市民の方が、健康づくりに取り組んでいただける仕組みを検討したいと考えております。	実施済み	ご提案いただいた「朝活」につきましては、現時点では予定はございませんが、ご提案を踏まえて、このたび市が主催するがん対策推進プランのキックオフイベントにおいて、若い世代を対象にヨガ体験を開催したり、若い世代に人気のコミュニティサイトでダイエットを通じた健康づくりを発信するなど、今後も若い世代が気軽に健康づくりに取り組めるよう工夫してまいります。	保健所
7	・区などもう少し小さな単位でも市職員と市民が直接話せる場（ワークショップなど）を開催してほしい。	検討する	「札幌市スポーツ推進計画」の策定時におきましても、グループ単位で意見交換をしていただく「市民懇話会」を開催いたしました。今後も、スポーツに関する計画の策定の場などを中心に、今回のワークショップのような、市民の皆さまの声を聞く機会を設けてまいりたいと考えております。その際、ご提案の「区などもう少し小さな単位」での実施につきましても、検討を進めてまいりたいと思います。	実施予定	平成28年度においては、スポーツ振興に関するワークショップ等は実施しておりませんが、今後「札幌市スポーツ推進計画」の中間見直しを行う予定としており、今後のスポーツ振興、とりわけスポーツを通じた地域の活性化策の検討などにあたり、可能な範囲でご提案の「区などもう少し小さな単位」での意見交換を取り入れてまいりたいと考えております。	スポーツ部

■ 事業への提案

テーマ②：ウインタースポーツの活性化について

No.	事業	事業の問題点	事業への改善提案	平成27年度 検討結果	平成27年度 市の今後の取組の考え方	平成28年度 再検討結果	平成28年度 再検討結果に関する市の考え方	所管部局
1	ノルディックスキー 札幌大会記念ウ インタースポーツ 活性化事業	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック選手の活用が少ないのではないか ・魅力発信、PR は十分ではない。 ・ウインタースポーツ施設を通じたさらなる啓発が大切 ・身近な環境で雪に親しむ取組からのステップアップが大切 ・もっと雪に親しむ工夫が可能では（遊びの指標化、スポーツ化） ・剰余金はいつか尽きる ・ウインタースポーツキャラバンの予算200 万／年は少ないのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノルディックだけでなく、アルペンスキーの普及・強化を促進する（指導者の育成など）。 ・いろいろな「雪遊び」を伝え、体験の機会を増やす。遊びのルールづくりや大会の企画・実施なども行っていく。 ・北欧などの冬の遊びなどを取り入れるための外国人の参加を促進する。冬に外でご飯を食べたり、ファミリーで楽しむノウハウがあり、文化の交流にもなる。 	検討する	<p>本事業では、ウインタースポーツ実施率向上のため、アルペンスキーやノルディックスキー等のウインタースポーツの普及に重点的に取り組んでまいりました。また札幌市ウインタースポーツ活性化推進協議会の議論に基づき、メディアの活用や観戦文化の醸成などに取り組んでいるところです。今後は、指導者の育成はもちろんのこと、小学生から様々な種目を体験できる機会を増やす取組を行うほか、ご提案の「外国人の参加促進」につきましても、他の事業も含めた今後の課題として検討を進めてまいります。</p> <p>雪遊びについては、雪まつりの残雪を利用して様々な遊びを体験できる「ウインタースポーツフェスティバル」という事業を行っております。また、札幌市発祥の「スノーホッケー」は、札幌市長杯も今年で33回目を数えるほど長い歴史があります。参加者は小学生から大人まで幅広く、他の市町村からも参加があるなど、特色ある冬のスポーツとして広く愛されており、今後もスノーホッケーの普及を続けてまいります。</p>	実施済み	<p>今年度、本事業では、地下歩行空間でウインタースポーツの普及・啓発を行い、観戦文化の醸成を図りました。ウインタースポーツ実施率向上に向けては、「さっぽろっ子ウインタースポーツ料金助成事業」においてスキーやスケートへの取組を促すほか、「オリンピックスキャラバン事業」において、ウインタースポーツのオリンピックに数多くご協力頂き、市民の方々にウインタースポーツの魅力を発信して参りました。</p> <p>指導者の育成については、今後実施予定のウインタースポーツ塾において実施を検討しているところです。「外国人の参加促進」につきましては、さっぽろグローバルスポーツコミッション※と連携し、様々なウインタースポーツに親しむ外国人の方々を増加を続伸する取組を行っているところです。</p> <p>また、地元の方々や観光客が多く集まる「ウインタースポーツフェスティバル」や、札幌発祥のウインタースポーツである「スノーホッケー」については、今年度もたくさんのご参加を頂いたところであり、次年度以降も開催することを検討して参ります。</p> <p>※「さっぽろグローバルスポーツコミッション」…北海道及び札幌の豊富なスポーツ資源を最大限活用することにより、様々な国際大会や大規模なスポーツイベントの誘致活動を行う、官民連携の組織</p>	スポーツ部
2	カーリング普及事業	<ul style="list-style-type: none"> ・5シートしかないカーリング場は小さい ・夏は氷の維持が高コストとなる ・カーリングのPR が足りない ・カーリング施設をもう少し増やしては ・成果の経年変化を見ていく必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・講習会を増やしては 	検討する	<p>現在、初心者向けのカーリング体験事業及び観光客等へのカーリング体験教室を実施しているところであり、より多くの方にカーリングを体験してもらうため、講習会等の気軽に体験できる機会の充実について検討してまいります。</p>	検討の結果、実施困難	<p>現在、当市で行っている体験事業・体験教室のほかにも、「どうぎんカーリングスタジアム」を管理しているさっぽろ健康スポーツ財団が、自主事業としてカーリング講習会を実施しております。</p> <p>講習会は十分に開催されているため、こうしたカーリングを気軽に体験できる機会があることをより広めていくことで、体験者数の増加を図っていきたいと思います。</p>	スポーツ部

■テーマに関連したその他の提案

テーマ②：ウインタースポーツの活性化について

NO	提案事項	平成27年度 検討結果	平成27年度 市の今後の取組の考え方	平成28年度 再検討結果	平成28年度 再検討結果に関する市の考え方	所管部局
1	・冬遊び情報を充実させ、リアルタイムで発信していく。SNS を活用する。	検討する	ご提案にあるようなSNSの活用も含め、冬季のスポーツに関する情報の発信について、内容、効果的な方法などの検討を進めます。	検討の結果、実施困難	SNSの導入には至りませんでした。市内のスポーツ大会・イベント情報につきましては、札幌市ホームページの「スポーツ大会のご案内」や、「札幌市スポーツ推進委員会」のホームページ等で随時お知らせしております。	スポーツ部
2	・学校（グラウンドや体育館）や公園（身近な公園・大通公園）などの公共施設の利活用を促進する。	検討する	屋内型の施設や歩くスキーコースとしての利用を除き、学校開放や公園等については概ね夏季にご利用いただいておりますが、ご提案のウインタースポーツを目的とした公共施設の利活用については、費用や効果、市民ニーズなどを見極めながら、その可否について検討を進めてまいります。	検討の結果、実施困難	冬期間、学校のグラウンドや身近な公園の多くは近隣の排雪場所として利用されており、これらを利活用のために整備することは費用面からみて難しいと判断いたしました。 大通公園につきましては、毎年2月中旬ごろに子ども向けウインタースポーツイベント「大通ウインタースポーツフェスティバル」を開催しておりますが、現時点ではこの他に新規ウインタースポーツイベントを実施する予定はございません。	スポーツ部
3	・北大の施設の活用も推進する。	検討する	北海道大学には、北海道マラソンでは大学構内をコースとするなど、スポーツイベントに対する協力をいただいているところがありますが、ウインタースポーツの振興という観点で、北海道大学を含めた他の教育機関との幅広い連携のあり方について今後も検討を進めてまいります。	検討の結果、実施困難	大学等教育機関との連携につきましては、学生にイベントのボランティアとして参加してもらうなど、人的支援での連携を主としており、現時点で、北海道マラソン以外で新規に大学施設を活用する予定はございません。	スポーツ部
4	・冬の外出のしやすさ、身近にスポーツできる環境づくりが大切なので、雪中競歩や冬のマラソン大会など、簡単にできて、楽しめる面白い行事の開催により、冬の健康づくりのためのスポーツへの参加を促進する（大会などがあると目標になる。参加賞を設けることもモチベーションにつながる）。公道の使用はハードルが高いため、はじめはスモールスタートで公園を活用する。例えば、モエレ沼を会場に、まずかんじきレース、次に歩くスキー、ウォーキングという順に開催すると雪も踏み固められて良いのでは。	検討する	ウインタースポーツの振興のためには冬でも身近にスポーツができる環境づくりは重要であることから、ご提案にあるような冬のスポーツイベントが、市のみならず民間や市民レベルでも多く開催されるような仕組み作りなど、今後の施策を検討する上でその可能性を検討してまいります。	実施済み	毎年2月上旬に開催されている「札幌国際スキーマラソン」をはじめ、すでに多くの歩くスキー等の大会が開催されており、また、各区でも雪を使ったスポーツイベント等が開催されております。 より多くの市民に参加してもらえるよう、大会・イベント情報の集約や、大会期間等についての周知等を引き続き行ってまいります。	スポーツ部